

宇都宮都市交通戦略 施策事業評価表 II

1. 施策の目的と目標

□目標とする交通環境	II. まちづくりに資する交通環境を整備する	□目的	自動車依存型社会により拡散した都市となった宇都宮市を改善し、都心部を中心とした市街地の魅力を向上し、人・都市機能の集約に資する都市の交通基盤となる公共交通の充実・強化を目指す。			
□施策の体系	1) 市街化区域の公共交通空白（不便）地域を解消する 2) トランジット施設に、地域の拠点性を高める機能を整備する 3) 中心市街地の回遊性を高める		(4) 自転車を快適に利用できる環境を整備する (5) 車や公共交通等が円滑に通行できる道路を整備する			
□目標指標	指標名	基準数値 (a) (基準年)	数値 (b) (評価年)	目標数値 (c) (目標年)	進捗状況 (%) 基準年(a/c) ⇒ 評価年 (b/c)	進捗評価
	① 公共交通夜間人口カバー率（市街化区域）	75% (H20年度)	86.0% (H26年度)	100% (H30年度)	75.0% ⇒ 86.0%	おおむね順調に進捗
	② 中心市街地通行量（休日）	46,987人 (H21年) ※10地点	116,189人 (H25年) ※28地点	125,396人(*) (H29年) ※28地点	— ⇒ 92.7%	増加傾向
	③ レンタサイクル利用者数	31,000人 (H21年度)	45,707人 (H26年度)	48,633人(*) (H30年度)	63.7% ⇒ 94.0%	おおむね順調に進捗

*新計画策定により修正

2. 重点施策事業の進捗状況

(凡例) ◎:予定どおりに実施 ○:おおむね予定どおりに実施 (一部未完了) △:一部未実施

施策事業名	事業主体	H26年度 実施状況	H27年度 当初予定	H27年度 実施状況	H27年度 評価	H28年度 当初予定
1-① 幹線バスの運行サービスの充実	バス事業者 宇都宮市	○路線の新設 →4月～インターパーク線(東野) →10月～清原・海星線(東野) →2月～今宮線(関東/社会実験) →3月～平出シャトルほか4系統(東野) ○LRTを見据えた路線再編の検討 →JR宇都宮駅東側における将来の公共交通ネットワークのイメージの作成 ○情報提供の充実 →自社HPの刷新(関東, 東野) ○利用環境整備 →ハイグレードバス停の整備(東武駅前, 県庁前)	○東図書館線(継続/東野) ○インターパーク線ほか6系統(継続/東野) ○今宮線(継続/社会実験) ○LRTを見据えた路線再編の検討 ※利便性を考慮した系統の見直し(JRバス)	○東図書館線運行継続(東野) ○インターパーク線ほか6系統運行継続(東野) ○今宮線(社会実験/関東) →運行ダイヤの見直し, 自主運行移行 →利用者 約5,000人/月 ○LRTを見据えた路線再編の検討 →11月 芳賀・東部地域公共交通網形成計画策定 ○停留所の新設(JRバス) →祖母井線2か所(ゆいの杜6丁目, ゆいの杜8丁目) ○利用環境整備 →河内自治センターバス停上屋整備	◎ ・今宮線は、通勤通学を中心に利用が定着してきており、運行頻度やルート等は維持しながら、自主運行に移行することができた。 ・LRTの導入に合わせた利便性の高い公共交通ネットワークを構築するため、芳賀町と連携し、「芳賀・宇都宮東部地域公共交通網形成計画」を策定した。 ・今後も、交通事業者と行政が連携を図りながら、LRTとバスが効果的に接続する利便性の高いバスネットワークの構築を進める必要がある。	○今宮線の運行継続(関東) ○駅東側におけるバス路線再編の検討
1-② 循環バス(ミニバス)の運行	バス事業者 宇都宮市	○きぶなの運行(関東) ○社会実験の実施 →南循環線, 平松本町線:運行計画の見直し(南循環線:JR宇都宮駅へのアクセス等, 平松本町線:運賃), 自主運行移行 ○路線の新設 →3月～越戸・ベルモール循環線, 花園町・卸団地線ほか2系統(東野)	○きぶなの運行(関東) ○平松本町線(関東) ○越戸・ベルモール循環線, 花園町・卸団地線ほか2系統(継続/東野)	○きぶなの運行(関東) ○平松本町線の運行(関東) ○越戸・ベルモール循環線, 花園町・卸団地線ほか2系統の運行(東野)	◎ ・ミニバス路線の運行継続により、移動手段の確保が図られている。 ・引き続き、運行の継続や利便性の向上に取り組む必要がある。	○循環バスの運行継続
3-② 都心部道路景観整備事業	宇都宮市	○ユニオン通り(市道3号線) →電線共同溝に関わる支障物の移設 →電線共同溝築造工事(103m) →地元勉強会の実施(7回)	○ユニオン通り(市道3号線) →電線共同溝に関わる支障物の移設 →電線共同溝築造工事(265m) →地元勉強会の実施(3回)	○ユニオン通り(市道3号線) →事前の支障物移設 →電線共同溝築造工事(186m) ※工事内容の精査により延長短縮 →地元勉強会の実施(8回)	◎ ・埋設物の事前移設や電線共同溝工事、勉強会の実施により、ユニオン通りの景観・歩行空間の向上を図る取組を進めている。 ・商業の活性化等都心拠点の形成に資する重要な事業であるため、引き続き関係機関と連携を図りながら、事業を推進する必要がある。	○ユニオン通り(市道3号線) →電線共同溝築造工事(76m) →地元勉強会の実施(5回) →照明工事
3-④ レンタサイクルの充実	宇都宮市	○駐輪場レンタサイクル(7か所) →普通自転車110台(稼働率94%) →電動アシスト55台(稼働率41%) →配備台数の随時調整 →イベント等の活用によるアシスト自転車のPR →利用45,707人 ○観光レンタサイクル(6か所) →宿泊施設との自主事業化の協議調整 →利用1,151人	○駐輪場レンタサイクル →レンタサイクルの実施 →配備台数の随時調整 →イベント等の活用によるアシスト自転車のPR ○観光レンタサイクル(6か所) →宿泊施設による継続的な運営 →新たな観光レンタサイクルの検討	○駐輪場レンタサイクル(7か所) →レンタサイクルの実施 普通自転車110台(稼働率91%) 電動アシスト55台(稼働率45%) →配備台数の随時調整 →利用45,755人(見込み) ○観光レンタサイクル(5か所) →宿泊施設による自主事業への移行後も継続的に運営	○ ・駐輪場レンタサイクルについては、利用者が着実に増加しており、中心市街地の通行量の増加に寄与している。 ・観光レンタサイクルについては、宿泊施設の自主事業に移行後も、継続的な運営を行っているところであるが、さらなる拡充に向けた検討を行う必要がある。	○駐輪場レンタサイクル →レンタサイクルの実施 →配備台数の随時調整 →JR岡本駅西口駐輪場でのレンタサイクル開始 ○観光レンタサイクル →レンタサイクルの拡充に向けて、他都市の取組事例などの調査

3-⑤ モビリティセンター(宮サイクルステーション)の整備	宇都宮市	○宮サイクルステーション →事前予約や2日間レンタルサービスの開始, レンタサイクルの増台(3台) →利用状況の分析やレンタサイクル利用者へのアンケートの実施 →来館5,692人	○宮サイクルステーションの運営 →スポーツバイクセミナーの充実 →施設に求められる機能やサービス等の検証	○宮サイクルステーションの運営 →スポーツバイクセミナーの実施 →施設の機能やサービス等の検証	◎	指定管理者と連携したサービスの充実に取り組むことにより, 利便性向上につながっている。 ・引き続き自転車の利用促進を図るため, 宮サイクルステーションのサービス拡充に取り組む必要がある。	○宮サイクルステーションの運営
4-③ 自転車道の整備	国 栃木県 宇都宮市	○自転車専用通行帯 →大沢宇都宮線, 西原・宮の原通り ○自転車歩行者の通行の分離 →いちょう通り ○整備延長 →17.6km(市道)	○自転車専用通行帯 →国道119号, 旧鹿沼街道等3路線 ○サイクリングロード →田川, 山田川の未整備区間, 鬼怒川左岸区間	○自転車専用通行帯 →国道119号(0.6km) →旧鹿沼街道(市道4866号線)など5路線(4.1km) ○サイクリングロード →田川・山田川サイクリングロード(2.5km) →鬼怒川サイクリングロード周回コース(1.2km)	◎	・自転車専用通行帯の整備については, 計画的に事業を進めている。 ・交差点や狭隘道路においても「矢羽根」などを活用し, ドライバーへの視認性を高め, 注意喚起を促すとともに, 自転車レーンの連続性の確保に取り組んでいる。 ・サイクリングロードについて, 河川管理者などとの協議を踏まえ, 整備を行っている。 ・今後も引き続き, 交通管理者と協議を行いながら, 道路状況に応じた整備を着実に進めていく必要がある。	○自転車専用通行帯 →白陽高校北(市道3761号線)など8路線(7.0km) →今後の「整備計画」策定 ○サイクリングロード →山田川サイクリングロード(1.2km)

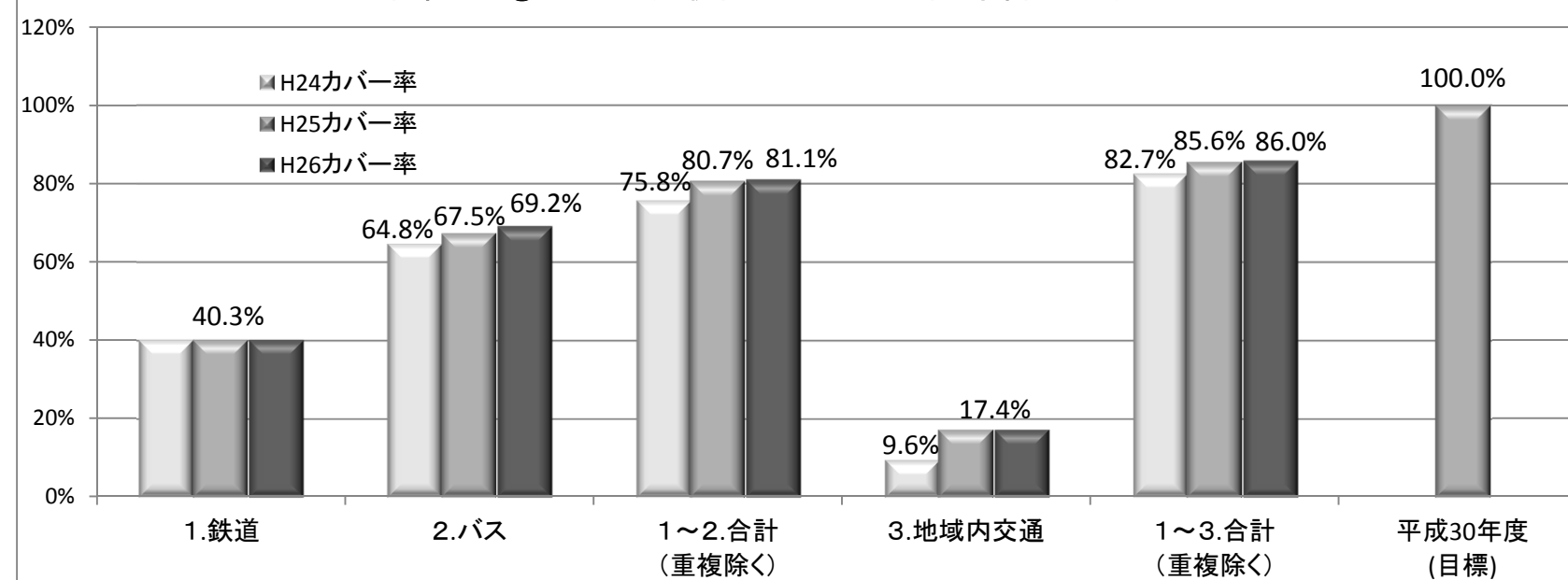
3. 施策の評価

- ◆市街化区域の公共交通空白不便地域の解消
 - ・バス路線の新設や循環バスの運行などにより, 公共交通夜間人口カバー率の向上が図られた。
 - ・JR宇都宮駅東側におけるLRT整備に伴う, バスネットワークの再編を施策事業として計上した「芳賀・宇都宮東部地域公共交通網形成計画」を策定した。
- ◆中心市街地の回遊性の向上
 - ・都心部道路における景観の向上や, 中心市街地及びその周辺における交通結節点でのレンタサイクルの充実により, 中心市街地における回遊性が向上した。
- ◆自転車を快適に利用できる環境整備
 - ・自転車走行空間の整備により自転車の利用環境や中心市街地へのアクセス性が向上した。

4. 取組の方針

- ◆市街化区域の公共交通空白不便地域の解消
 - ・ネットワーク型コンパクトシティの形成に資する交通基盤の形成を図るため, 引き続き, バス路線の新設・再編に取り組む。
 - ・JR宇都宮駅東側において, LRT整備に伴うバスネットワーク再編についての検討を行う。
- ◆中心市街地の回遊性の向上
 - ・引き続き, 都心部道路における景観に配慮した歩行者空間の確保や, 中心市街地及びその周辺における交通結節点でのレンタサイクルの充実に取り組む。
- ◆自転車を快適に利用できる環境整備
 - ・自転車とバス・鉄道との接続強化や自転車を利用しやすい環境整備のため, 引き続き, 自転車専用通行帯やサイクリングロードの整備に取り組む。

目標Ⅱ-① 公共交通夜間人口カバー率(市街化区域)



【利用圏域】1.鉄道:1,500m 2.地域内交通:当該自治会エリア全域 3.バス:バス停から半径250m
【算出方法】H17国勢調査(合併旧町含む)100m夜間人口メッシュの重心が利用圏域に含まれる場合,メッシュ内の全ての人口を利用圏域内人

目標Ⅱ-③ レンタサイクル利用者数

